

書評

『わくわく小惑星ずかん』

吉川 真 監修

飯塚礼子（東京未来大学、日食情報センター）



吉川 真 監修

恒星社恒星閣 / 96 ページ

本体 2,300 円 + 税 / 2020 年 10 月 16 日発行

漢字にはふりがなが付けられ、小学生から読める本である。ただ、お子様向けの本ではなく大人も十分楽しめる本として紹介したい。

「ずかん」の中の天体たちは個性あふれるイラストで登場し、とても愛らしくイラストのイメージがそのままその天体の個性に繋がっている。

小惑星の周りには様々な疑問、不思議を「なぜ?」、「どうして?」という視点に置き換え、わかりやすく漫画で話を進めている。内容を見ると、小惑星と惑星の違いについて、小惑星はどのように生まれたか、など天体物理についても、図と写真にて丁寧に説明されており、最新の情報が知らず知らず目と頭の中に入ってくる。

「小惑星ってなに?」や「どうして小惑星に探査機を飛ばすの?」という質問に世の大人たちはスマートに答えられるであろうか。そう

いう時に、この本は非常に役に立つ。大人の我々が見ても、なるほど! そうか! とワクワクする。

本名には「小惑星」と書かれているが、彗星の話、衛星、探査機や人工衛星の話も登場してくる。親子で楽しく学べる本である。小惑星「いとかわ」や「りゅうぐう」からサンプルリターンした日本の小惑星探査機「はやぶさ（初代）」「はやぶさ2」の偉業は日本の多くの方がご存じかもしれない。たどり着いた小惑星がどのような天体であったか観測から何わかったかも紹介されている。小惑星を探査する意味は、この本を読めばわかるだろう。

小惑星が地球に接近する可能性があると言われる天体について、どのような観察や実験をおこなっているのか。ぜひ、未来に重要な情報も記載されているので、興味深く読んでいただきたい本である。

ずかんということで、ハードカバーであり、本棚でもしっかり主張している1冊ではないだろうか。お子様のプレゼントとしても、ぜひお勧めしたい。



飯塚 礼子